中心市街地における「中心性」に関する研究

Study on “Centricity” in the central city area

学籍番号　47-156735
氏　　名　茅野 壮志（Kayano, Soshi）
指導教員　出口 敦 教授

1. 序論

本論文は、日本の都市形成過程を元に、都市の「中心性」について示唆を与えるものである。戦後、都市計画家の丹下健三は、東京計画 1960 において、都心に代わる線形都市を考案し、広場を含む核（コア）を都市の成長の必要性から都市軸上に配置することで、新しい都心に代わるコアの成長形態を提案した。(図 1-1)(1) 一方、「四全総」

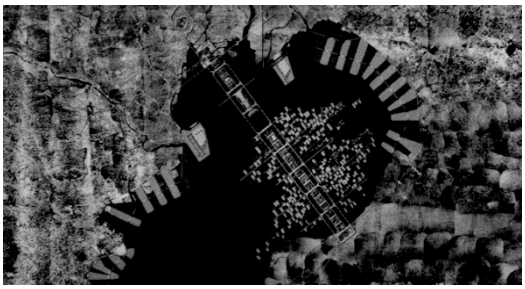


図 1-1 東京計画 1960

や「２１世紀の国土のグランドデザイン」において、人口や諸機能の東京一極集中が一層進み、国土の不均衡発展を是正するために、全国総合開発計画により「多極分散型国土の構築」などがキャッチフレーズとして掲げられ、多核多重構造のようなイメージを打ち立てる都市が多く現れた。(2) その後、都市の郊外化と中心市街地の衰退が顕著となり、多核化、分散に対するコンパクトシティ構想が全国で普及し、平成 18 年に「まちづくり三法」が改正され「コンパクトシティ（集約型都市構造）」に向けての制度化が図られた。中でも市街地レベルでの都市機能集約方策の一つとして、中心市街地活性化法が挙げられる。中心市街地活性化基本計画（以下、中活計画）により様々な事業の展開が可能となったが、活性化が図られている市町は少ないのが現状である。特に中活計画において、都市の「中心」および「区域」の設定状況は、個別に決定されるため、その設定数や規模・設定方法には大きな差があると推測される。

そこで中活計画を題材として、中心市街地における中心要素を抽出し、日本都市の「中心性」について再考する。具体的に以下三点を目的とする。①日本の都市形成史を中心機能から整理し、国外の計画都市プランにおける中心要素の特徴と概念的変遷を整理する。②中活計画を策定している中核市を対象に、都市の中心要素を分析し、中心及び区域設定の実態を整理する。③中心性指標を構築し、指標を基に類型化、各特徴を明らかにするとともに、姫路市を対象として中心市街地における環境整備課題とその方向性を提示する。

2.本研究の位置づけ

(1)既存研究レビュー

中心市街地に関する近年の既往研究を整理する。中心市街地活性化法制定後から、①中心部の商業活動の衰退、②郊外への様機能展開、③地方都市の人口減少をテーマとした研究等が多数行われ、商業活動の衰

退と今後の予測についての研究が多く挙げられる。回遊行動をGISを用いて研究したもの[3]、商業施設の分布と駅の関係性を統計的分析から研究したもの[4]、人口と商業床面積の変化に関する研究[5]など様々な研究がなされてきた。一方、中活計画に対する「活性化」の効果やその設定に疑問を抱き、課題を示唆する論文も多く、近年では計画内容の特徴を観光統計から類型化した研究[6]、目標指標の達成状況と都市類型の関連性の研究[7]などが挙げられる。

(2)本研究の特長

しかしいずれの研究にも、中心市街地における「中心性」そのものに疑問を投げかけた論文は少なく、本研究では日本都市の歴史的な都市形成過程を中心機能で分化し捉え直すことで、現代の中心市街地における「中心性」について再考するための示唆的研究に特長がある。

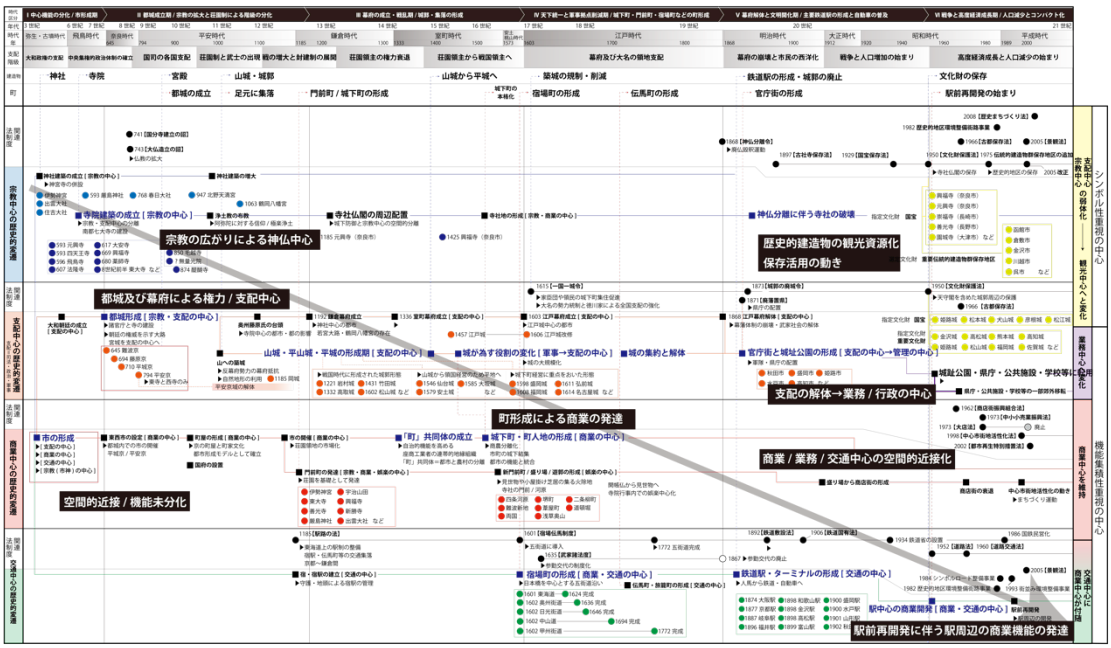
3. 都市形成史から捉えた「中心性」の整理

まず日本の都市形勢過程を四つの中心機能から捉える。（表 3-1）

表 3-1 四つの機能による都市形成過程の概観

支配中心の変化…
室町期に入ると、外敵から身を守る山城が築城され、戦国時代には城を中心とした各地の統治が行われる。その後、城の持つ防御機能が衰退したが、領主の視線が行き届くようヴィスタを形成し、城はシンボルとして支配の機能を果たしていた。しかし、城郭の廃城令とともに、シンボル性を担った天守や城郭は、後に軍用基地や小学校、官庁街など近代社会が求める機能へと変化し、業務・行政中心へシフトした。
商業中心の変化…
市場交易の原理である「楽」が成立し、市場から定期市へと変化することで、街路沿いに店が並び「町」が形成され、商業の中心の基礎が形成された。後に、城下町でも「楽」の原理を導入し、町人地が商人や職人の活躍の舞台となるような公共空間として成立する。江戸時代から明治時代を越え、城下町は大火や戦災などを除くと原型を留めており、今でも城下町を基礎として商店街や商業機能を持った施設が立地している。一方城下町の名残を文化財に指定されると、観光機能と商業機能から中心市街地の活性化に寄与している。
宗教中心の変化…
古代寺院建築が成立してから、寺院の役割は国家・王権を護持するものであり、都市の中で支配 / 宗教のシンボルであった。都城が成立すると、権力的機能を保持するため、中央集権集団が政治結集する意志を確認する場として寺院は配置され、宗教機能とともに支配中心へと変化していく。後に、寺院建築は中心部から排除される。明治維新後に廃仏毀釈という仏教排斥運動が繰り広げられるが、文化財を保護・保存する法律が制定され、宗教・支配の機能から観光機能へシフトしている。
交通中心の変化…
徳川政権で五街道の整備が整備され、交通機能の基礎が築かれた。江戸幕府が解体され、明治維新を迎えると、駅舎の開業と鉄道網の整備が急速に発展する。第一次世界対戦により飛躍的に経済の発展を遂げ、同時に鉄道敷設を一層進めた。戦後、モータリゼーションの進行に伴い、ニュータウン建設や郊外スプロールが進行するが、人口増加の時代から人口が頭打ちし、高齢化・人口減少する社会で、都市の縮小化を図るコンパクトシティ構想が打ち出され、交通結節点である鉄道駅を中心としたまちづくりが各地で広がる。さらに駅前再開発等を通して交通機能だけでなく、商業機能も鉄道駅へと集中し、交通機能に商業機能が寄りつつある。

表 3-2 四つの中心機能から捉えた「中心性」変遷表



支配、宗教、商業、交通の４つの中心機能を整理すると、権威を示すための宗教や軍事力といった中心要素（城郭や寺院、神社といった歴史的建造物）は、都市の象徴（シンボル）となっていること、歴史的建造物は宗教機能から保存活用の対象となり、現代の日本都市において観光資源として活用されてきたこと、一方で、支配機能の一部業務・行政機能へ変化したこと、地方都市の中心市街地は商業施設等の郊外移転が進行したことにより、空洞化が進んだ背景から都市機能の集積を誘導する都市のコンパクト化を図るため、駅前再開発などの交通中心が拡大するとともに、商業・交通中心の空間的近接化が生じてきており、都市施設機能の集積度合いが重要視されていることなどが変遷表から捉えられた。(表 3-2)

続いて国外都市プランにおける中心要素の整理を行い、これらから現代の「中心性」を定義する。古代・中世から権威を表すシンボル性を重視したお城や宮殿を中心として計画していたが、ルネサンス・近世に入るとシンボル性と機能集積性が混在した街路や広場を中心とした計画が行われるようになり、現代では機能主義の影響もあり機能集積性を重視した地区やセンターを中心として計画されるようになる。中心の形態的変化からみると、点的中心から線的、面的へと変化していることがわかる。以上から、「中心性」を以下の二つの性質で定義する。(表 3-5)

表 3-4 海外都市プランの中心要素による変遷

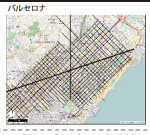
年	-800	800-1600	1600-1900		1900-	
時代	古代	中世	ルネサンス／近世		近代	
時代の特徴	宗教・政治活動の中心、都郭都市	政治・宗教の発展（キリスト教・イスラム教の発展）	大航海時代、絶対地の建設 大都市の成長／国民独立／産業革命		理想都市／都市美運動・機能主義の発展	
都市の中心	宮殿、神殿、王宮、広場		広場、広場具街路		地区、シビックセンター（集合体）	
中心の概念的変遷	権威を表すシンボル性を重視 城や宮殿を中心とした計画		シンボル性と機能集積性の混在 街路や広場を中心とした計画		機能を集約した地区として機能集積性を重視 地区やセンターを中心とした計画	
代表都市	北京（長安） 		バルセロナ 		シカゴ 	
中心要素	都城を中心とした計画都市		街路／広場を中心とした計画都市		シビックセンターを中心とした計画都市	
都市一覧	アテネ（ギリシャ）	バグダード	マドリッド	ワシントン	チャンディガール	ニューデリー
	アクロポリス・アゴラ	円城	アエルタ・デル・ソル広場	ペンシルヴェニアアベニュー	第17地区（開発地区）	行政センター
	長安（北京）		バルセロナ	ロサンゼルス	シカゴ	イスラマバード
	宮城		街路／広場	スパニッシュ広場	シビックセンター	公共サービス地区
			アデレード	ウィーン	大連	ブラジリア
			ヴィクトリア広場	シュテファン大聖堂	ニコライフスカヤ広場	都市軸
			ロンドン	パリ	キャンベラ	デトロイト
			セントポール大聖堂／記念碑引所	エトワール広場／オペラ座等		
			カールスルーエ	クライストチャーチ		
			尖塔／王宮	大聖堂		
			メキシコシティ	ダニーデン		
			王宮	オクタヨコ広場		
			ニューヨーク	フィラデルフィア		
			エディンバラ	ウェリントン		

表 3-5 二つの「中心性」の定義

シンボル性…
心理的中心性を指し、ある建造物がその地域の象徴であると人々に認識されること
対象中心（地）要素…
寺院・神社・城郭・参道・街道・重要伝統的建造物群保存地区など、歴史的・文化的資源であり、現代では観光（一部宗教）機能を保持している文化財／街路／地区と定める。
機能集積性…
物理的中心性を指し、商業／業務・行政／交通等の機能を持つ施設がある一定領域に集積すること
対象中心（地）要素…
商業／業務・行政／交通などの機能を持った、シンボル性の高い中心要素を除いた施設／地区と定める。

4. 中心性指標による都市類型化と特徴

続いて二つの中心性、シンボル性と機能集積性を図るための中心性指標を構築する。対象都市として、中活計画の中で最も策定数の多い中核市35都市を対象とした。地域拠点の役割と位置づけ方針に着目した都市構造に関する研究を行った野嶋らは、地域拠点の中心に据えた都市機能を、ヒアリングを通して明らかにしており、一部を改変して引用する。[3](表4-1)施設数を区域面積を考慮して、各都市の系統ごとに割合を算出し、「①商業機能集積型」「②交通機能集積型」「③歴史文化機能集積型」「④総合集積型」の４つに類型化した。さらに中心市街地の中で主要な機能を持つ商業施設と鉄道駅の関係性を考察する。

表 4-1 中心性指標対象施設一覧

中心の性質	中心施設
交通系	駅
	バスターミナル
業務・行政系	市役所・県庁
	コミュニティ施設（会館・公民館）
	教育施設（小学校・中学校・高校・大学）
	文化施設（文化ホール・美術館・博物館・図書館）
商業系	大規模小売店舗・百貨店（店舗面積5000㎡以上）
医療福祉系	病院（国立病院/その他は200床以上）
	保健センター
歴史文化系	指定文化財（国宝・重要文化財（一部））
	史跡名勝天然記念物（特別史跡）
	選定文化財（重要伝統的建造物群保存地区）
	歴史的地区環境整備街路事業（歴みち事業）

①商業機能集積型…中活計画区域において、大規模商業施設の割合が高いことを示し、機能集積性が高い都市といえる。(図 4-1)商業施設と鉄道駅の関係性をみると、鉄道駅に集中して立地している都市が多く、一極集中型の都市といえる。

②交通機能集積型…中活計画区域において鉄道駅数の割合が高いことを示し機能集積性が高い都市といえる。特に、LRT や路面電車を都市内に張り巡らされた都市が多く該当し、交通機能が整っている都市である。(図 4-1)主要鉄道駅とその他の鉄道駅という、複数の中心が存在し、二核集中型やバランスの取れた都市が多いと考えられる。

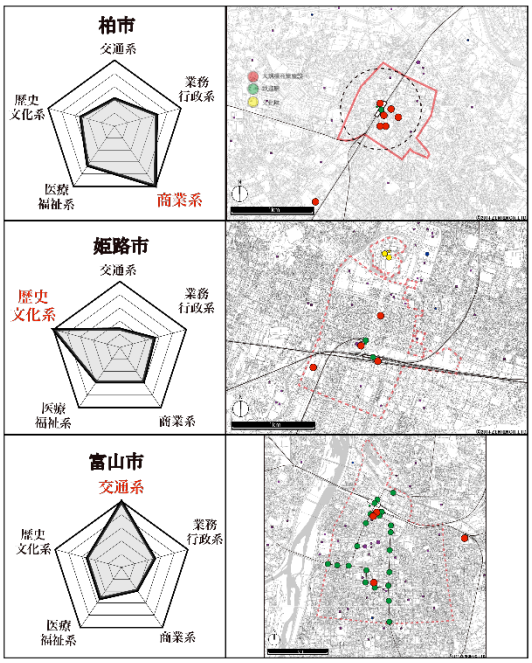


図 4-1 各機能別の代表例

③歴史文化機能集積型…特に歴史文化系の数値が高く、シンボル性の高い都市といえる。(図 4-1)商業施設と主要鉄道駅との関係性をみると、バランス型に該当し、お城と主要鉄道駅という二核が存在することの影響により、駅周辺、まちなかともに商業施設が立地していると考えられる。

5. 姫路市における市街地環境整備に関する課題

ケーススタディとして姫路市を対象とした市街地環境整備についてヒアリングを行った。課題として、人が駅周辺に集中する中で観光資源としての城周辺が空洞化し、まちなかの産業および回遊性が低下しつつあり、西二階町商店街や城に近い本町商店街には空き店舗が多く見られ、城に近づくほど増加傾向にあることが挙げられた。姫路市は駅と城の間隔が短いため徒歩圏内でまちを回遊できる強みを持っている一方、二つの中心間での影響を強く受けやすく、シンボル性と機能集積性のバランスを取ることが難しい都市と考えられる。

6. 今後の課題

本研究では、「中心性」そのものの歴史的変遷を踏まえた定義を行い、中心市街地の中心性について分析したが、各都市の間でも時代ごとに中心の性質は変化しており、今後の課題として一都市における「中心性」を深く捉える必要があるだろう。

【参考文献】
1)苅谷哲郎(2014)「丹下健三の都市軸構想と階層構造法に関する考察 丹下健三の都市デザイン　その1」日本建築学会計画系論文集 Vol.79 No.696
2)姫路市HP「姫路市の都市構造」(http://www.city.himeji.lg.jp/s70/2212533/_5105/_7851/_8747.html 2016年12月1日閲覧)
3)氏原岳人他(2014)「二極の特性の異なる商業エリアを有する中心市街地内の回遊行動の実態分析-岡山市の中心市街地を事例として」都市計画論文集,Vol.49 No.3
4)溝上章志(2012)「中心市街地の空間構成と歩行者回遊行動の分析フレームワーク」土木学会論文集,Vol.68, No.5
5) 山口邦雄(2014)「非線引き地方都市における人口と商業床面積の即位的変化に関する研究」都市計画論文集, Vol.49 No,3
6)外村剛久,宮下清栄(2012)「観光統計を用いた都市の類型化による中心市街地分析と中心市街地活性化基本計画の連携について」都市計画論文集, Vol.47 No.3
7)伊藤伸一,海道清信(2012)「中心市街地活性化基本計画における目標指標の特徴と達成状況」都市計画論文集, Vol.47 no.3
8)野嶋慎二,石原周太郎他(2014)「地域拠点の役割と位置づけ方針に着目した都市構造のあり方に関する研究-都市計画マスタープランを策定している全国の中規模都市を対象として-」都市計画論文集, Vol.49